房子芩連ヲ加テ用ベシ、神効アリ、此症右ノ藥方ノ類ヲ十貼計用レバ多ハ愈也、〇中略

傷寒百合病ト云症アリ、多ハ傷寒瘟疫ノ後、虛勞シテ臟腑不平、變ジテ此病トナル、其證寒ニ非ズ熱ニ非ズ、飲食セント欲シテ食セズ、行ント欲シテ不行、坐セント欲シテ不坐、藥ヲ服スレバ卽吐シ、小便赤ク、鬼ヲ見ルガ如クナルヲ百合病ト名ク、此胡百合湯ヲ用ベシ、其効如神、

〔牢獄秘錄〕牢死之者之事〇中略

一牢內之病氣とは、皆牢疫病也、是は數年人々をこめ置故、自然と人之身之臭氣こもりて、此臭氣を鼻に入れ候ゆへ、皆牢疫病に成ルト云、

〔牢獄秘錄〕牢內ニ而毒藥之咄之事

一牢內にて一ふくとて、毒藥を呑せ殺し候ハ、此もの存命に候得バ、殊之外障りと成る故殺す由、世間一統之咄しなりといへ共、是ハ跡方もなき虛言にて、牢內に左樣成事決而無之、此毒藥有之といふ人ハ、實正知らぬものゝ言初めしなりといへども、このそら言當時世間之人さらぬといふものなし、誠に毒藥有と思ひ居る事こそ愚成わざなり、また牢死するもの多きハ、數年來牢內にこもり居て、風も通らぬ處にて、或ハ熱病に死しても、その儘に捨置故、自然と人の息氣、牢內の板にも柱にもうつりてわるぐさく、此臭氣をかぎ候事ハ、牢內一同之事故、初牢の者ハこの臭氣に當りて、疫病と成、是を牢疫病といふ也、この疫病にとりつかれしもの、牢死之時ハ、牢屋敷にて一ふくもられしといふ也、是實說也、疑ふべからず、

流行例

〔古事記中崇神〕此天皇之御世、役病多起、人民死爲盡、爾天皇愁歎而、坐神牀之夜、大物主大神顯於御夢曰、是者我之御心、故以意富多多泥古而、令祭我御前者、神氣不起、國安平、是以驛使班于四方、求謂意富多多泥古人之時、於河內之美努村、見得其人貢進、〇中略於是、天皇大歡以、詔之天下平人民榮、卽以意富多多泥古命爲神主而、於御諸山拜祭、意富美和之大神前、〇中略因此而役氣悉息、國家安平也、